

探究科学習指導要領（第⑥案）

文部科学省教育課程特例指定に基づく目標と内容の設定と指導計画の作成

令和 7 年 10 月 24 日

学校法人別府大学明星小学校

明星小学校の挑戦

<>

1 学校教育目標の目指すもの

<明星小学校教育目標と目指す子ども像>

広く国際社会に生きる人間として、一人ひとりの個性を生かしながら、

豊かな人間性と創造力を身に付け、たくましい行動力をそなえた心身共に健全な児童を育成する。

○心みがく子

*思いやりのある子

*コミュニケーションできる子

*挨拶し心を開く子

○探究する子

*知識のある子

*自ら問いを立てる子

*振り返りができる子

○リーダーシップのある子

*挑戦する子

*バランスのとれた子

*熱い思いを持つ子

2 本校の特色及び現状と課題

その1 79年の歴史と伝統

昭和22年4月開校した本校は、カトリックの学校法人明星学園としてスタート。

平成10年10月に学校法人別府大学へ移管。

昭和22年4月の6年生を第1期生とし、現在の6年生が第79期。

バザー、3泊4日修学旅行、マラソン大会、短縄検定など行事の多くを引き継ぐ。

その2 児童や保護者の願い

開設当初から国際感覚の向上を目指し、1年生からの英語授業等、英語教育を充実。

特に移管後、進学力向上を目指し、パワーアップ学習、課外クラブ、学童など整備。

落ち着いた雰囲気、図書館の充実、芝グラウンドなどの環境、探究学習へも期待。

その3 児童数の減少への対策

所在地の別府市の児童数減少と相まって、令和3年4月の在籍児童数は299人、4年後の令和7年4月は225人と、4年間で75名の減少。小学校単独での赤字状況が浮き彫りに。教育内容の充実とともに、その情宣活動を拡充する。

その4 新しい教育への対応

令和6年12月に中央教育審議会が新しい学習指導要領について諮問、令和7年9月に論点整理が公表する等新しい教育への動きが加速している。教育内容の充実に向けてこれらの動きと併走し、県内唯一の私立小学校として提案性を持ちたい。

3 教育課程特例校指定による「各教科の探究の明示化」と「探究科の創設」

令和6年8月末に、文部科学省の教育課程特例校を申請し、令和7年2月にその指定を得た。本特例では、1～6年生までの「探究科」「英語科」を新設した。英語科は、文科省の教科書や補助教材とOXFORDのテキストでカリキュラムを整備した。探究科は、各教科から5時間の時間数を捻出し、週3～4時間の新教科として、3つの領域を設定した。

また、その他各教科では、単元の習得・活用の後に探究の段階を位置付けるようにしている。各教科の中で、より教科の内容として発展的な課題や、日常生活や自然や社会の事象との関わりで生まれる課題の解決を図ることで、探究力がより強固に育つことを期待している。

明星小学校 探究科の創設に当たって

Ⅰ 教科創設の背景と目的

明星小学校では、「広く国際社会に生きる人間として、一人ひとりの個性を生かしながら、豊かな人間性と創造力を身に付け、たくましい行動力をそなえた心身共に健全な児童の育成」を教育目標に掲げています。

この目標の実現に向けて、児童が自ら問いを立て、情報を活用し、言葉で考えを深め、他者と協働しながら、地域や社会とつながる学びを通して価値を創造する力を育てるために、独自教科「探究科」を創設しました。

2. 探究科のねらい

探究科は、探究的な学習の一連のプロセスを通して、課題解決に必要な情報を扱い概念を形成する力、問いを深め情報を関連整理して意味付け、新しい価値を創造する力、他者と協働しよりよい社会を目指す態度を育てます。

3. 明星小らしい探究の特色

(1) 児童の実感に根差し、地域や世界とのつながりを軸にした探究

- ・「ワクワクマイスクール」「町のキラリ」「地域の人と協働」など、児童自身の生活や関心から出発する探究活動を重視。
- ・遊び・交流・フィールドワークなどを通して、児童が実社会との接続を実感。
- ・地域の人々や地域にいる外国人と協働する経験を通して、社会参画の基礎を育む。

(2) 探究のプロセスで探究する力を段階的に育成

- ・低学年では「気付き」「比較・整理」「伝える」力を育てる。
- ・中学年では「問いの深まり」「協働的な探究」「価値の創造」へと発展。
- ・高学年では「自覚的な探究者」として、社会に向けて発信・行動する力を育てる。

(3) ABC 3つの領域で、情報活用能力、言語能力、問題発見・活用能力を重点的に育成

- ・各教科の学習の基盤になる各能力を各領域で重点的に育成して各教科の探究と往還。

4. 教育課程の中核となる教科としての位置付けと展望

探究科は、各教科等との関連を活かしながら、合科的・横断的・総合的な学びの核として機能します。児童が自らの問いを深め、仲間と協働し、地域とつながりながら、未来を創る力を育てる場として、明星小学校の教育の中心に位置付けています。

各教科では、単元の習得・活用後に探究の段階を位置付けるようにしています。各教科の中で、より教科の内容として発展的な課題や、日常生活や自然や社会の事象との関わりで設定する課題の解決を図ることで、探究科の探究課題との「のりしろ」が生まれ、上で述べた探究力がより強固に育つことを期待しているところです。

第1 目 標

探究的な見方・考え方を働かせ、合科的・横断的・総合的な学習を行うことを通して、国際社会を生き、共に未来を創るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 課題を見出し解決する過程で必要な知識や技能を身に付け、課題にかかる概念を形成するようにする。
(知識及び技能)
- (2) 好奇心や、広く実生活・実社会の中から問いを見出し、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現、評価・課題の更新を行い、新しい価値を創造することができるようにする。
(思考力、判断力、表現力、創造力等)
- (3) 自他の考えを調整し、解決を目指して粘り強く協働して取り組み、より幸せな自分や社会を目指して、新しい価値を創造しようとする態度を養う。
(学びに向かう力、人間性等)

第2 各学年の目標及び内容

〔第1学年〕

1 目 標 (気付きと親しみ)

ワクワクマイスクールに関わる活動を広げることを通して、次の資質・能力を身に付けるようにする。

- (1) 身近な人、もの、ことに親しみを感じて関わり、探究的な見方・考え方を働かせて関心を持つたり疑問に思ったりしたことを調べ、簡単な情報収集や整理を通して、自分なりに意味付け理解するようにする。
- (2) 関心を持つたり疑問に思ったりしたことから問いを立て、違いや変化に気付き、簡単な比較や順序付けをしながら、言葉や絵で他者に伝える力を育てる。
- (3) 他者の考えに関心を持って聞き、交流したり、調整したり、自分の考えをよりよくしたりしようとする態度を養う。

2 内 容

A コミュニケーション探究 (言葉への親しみと伝える喜び)

- (1) ソーシャルスキルトレーニングのエクササイズを使って友達と好きなものや得意なことを伝え合い、どんなところが似ているかを考え、自分や相手の良さに気付き、友達に親しみをもとうとする。

- (2) 哲学対話の手法により身近なテーマについてみんなで話し合いをして、「なんでだろう？」と問いを考え、自分の思いや友達の考えを聞く力に気づき、いろいろな考えを楽しく聞こうとする。
- (3) シンキングツールを使って情報を整理する活動を通して、比較する、分類する、理由付ける、関連付ける等の方法を考え、整理分析する技法を身に付け、自分の考えを伝えようとする。

B グローカル探究（身近な環境への関心と地域理解）

- (1) 学校の中を探検する活動を通して、学校の施設の様子や学校生活を支えている人々や友達、通学路の様子やその安全を守っている人々などについて考えることができ、学校での生活は様々な人や施設と関わっていることが分かり、楽しく安心して遊びや生活をしたり、安全な登下校をしたりしようとする。
- (2) 家庭の仕事を見付けて行う活動を通して、家庭での支え合いや自分の役割について考えるとともに、世界の家庭の様子にも触れ、生活の違いや共通点に気づき、身近な暮らしの大切さを感じながら、健康に気を付けて生活しようとする。
- (3) 身近な自然を利用したり、地域の方や外国にルーツを持つ人に聞いたりして国内外の遊びを体験する活動を通して、遊びのルールや文化の違いに気づき、自然の不思議さや多様な価値観を感じながら、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。
- (4) 幼児との交流を通して、相手の思いや文化的背景を想像しながら伝え方を工夫し、身近な人々との関わりの楽しさや多様性への理解を深め、進んで触れ合い交流しようとする。

C マイ・キャリア探究（自己理解の芽生えと興味の発見）

- (1) 自由研究に取り組む活動を通して、興味のある事象を数や形に着目して、考えたことや気付いたことを筋道立ててまとめる力を身に付け、自分の問いに向かって粘り強く考えようとする態度を育てる。
- (2) 学級などの係の仕事に取り組む活動を通して、得意なことや興味を生かして協力し、集団の目標達成に向けた働き方を身に付け、仲間と支え合おうとする態度を育てる。
- (3) 家庭の仕事に関わる活動を通して、家族の役割や自分にできることを考え、家庭生活に関する理解を身に付け、進んで家庭に関わろうとする態度を育てる。
- (4) 将来の夢を描く活動を通して、自分の興味や願いを言葉にして伝え、夢に向かう姿

勢や考え方を身に付け、自分の未来に期待を持つようにする。

3 内容の取扱い

(1) 地域性や幼児期との接続性への配慮

地域の自然や人との関わりを活かし、幼児期との接続を意識した継続的な活動を行う。また、地域の自然や伝承遊びなど、実態に応じて活動を加えて指導することができる。

(2) 探究的な見方・考え方の芽生えの育成

活動の中で「問いを立てる」「違いに気付く」「理由を考える」などの思考のプロセスに触れながら、探究的な見方・考え方の芽生えを促すようにする。

(3) 振り返りによる学びの可視化

活動の後に簡単な振り返り（絵・言葉・ふりかえりカードなど）を取り入れ、自分の気付きや考えの変化を可視化することで、学びの意味付けを促す。

〔第2学年〕

1 目 標 （比較と整理）

町のキラリを発見する活動を広げることを通して、次の資質・能力を身に付けるようにする。

(1) 身近な人、もの、ことに関心を持ったり疑問に思ったりしたことを調べて、自分なりに意味付け理解するようにする。

(2) 関心を持ったり疑問に思ったりしたことから問いを立てて、比較したり、変化を捉えたり、気付きを深めたりして共通点や差異点に着目して問いに応じて情報を選び、まとめる力を育てる。

(3) 他者の考えに関心を持って聞き、交流したり、調整したり、自分の考えをよりよくしたりしようとする態度を養う。

2 内 容

A コミュニケーション探究（思いの言語化と関わりの深化）

(1) ソーシャルスキルトレーニングのエクササイズを使って友達と好きなものや得意なことを伝え合い、どんなところが似ているかを考え、自分や相手の良さに気付き、友達に親しみを持とうとする。

(2) 哲学対話の手法により身近なテーマについてみんなで話し合いをして、「なんでだろう？」と問いを考え、自分の思いや友達の考えを聞く力に気付き、いろいろな考えを楽しく聞こうとする。

- (3) シンキングツールを使って情報を整理する活動を通して、比較する、分類する、理由付ける、関連付ける等の方法を考え、整理分析する技法を身に付け、自分の考えを伝えようとする。

B グローカル探究（地域とのつながりと生活の探究）

- (1) 地域を探検する活動を通して、地域の人々の暮らしや働き方について考えるとともに、世界の地域との共通点や違いにも触れ、自分たちの生活が広くつながっていることを感じながら、親しみや愛着をもち、安全に生活しようとする。
- (2) 地域にいる外国人や異なる文化背景を持つ人々との交流を通して、遊びや道具の工夫に文化的な違いがあることに気づき、多様な価値観を尊重しながら、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、伝え合い、進んで交流しようとする。
- (3) 自分自身の成長を振り返り物語にまとめる活動を通して、自分を支えてくれた人々や文化的背景について考え、感謝の気持ちをもちながら、これからの成長と広い世界への関わりに願いを持って、意欲的に生活しようとする。

C マイ・キャリア探究（成長の振り返りと目標の設定）

- (1) 自由研究に取り組む活動を通して、興味のある事象を数や順序、分類などの視点で整理し、簡単なデータや図表を使って自分なりにまとめる力を育て、問いに向かって考えようとするようにする。
- (2) 学級の係の仕事に取り組む活動を通して、役割を理解し、友達と協力してクラスの活動を進める方法を身に付け、仲間と支え合おうとするようにする。
- (3) 家庭や地域の仕事に関わる活動を通して、自分にできることを見つけて取り組み、生活の工夫や役割を理解し、進んで関わろうとするようにする。
- (4) 将来の夢を描く活動を通して、自分の興味や願いを言葉にして伝え、夢に向かう姿勢を育て、自分の未来に期待を持つようにする。

3 内容の取扱い

(1) 第1学年との連続的・発展的な指導

第1学年からの活動（例：交流・紹介・探検）を発展させ、児童の発達段階に応じて活動のねらいや方法を発展させるようにする。

(2) 思考のプロセスを通じた探究的な見方の定着

活動の中で、問いを立てる・比較する・分類するなどの思考のプロセスを意識的に取り入れ、探究的な見方・考え方を定着させるようにする。

(3) 振り返りと教科横断による学びの広がり

活動後に振り返りを取り入れ、気づきや考えの変化を可視化するとともに、他教科との関連を意識し、教科横断的な視点で学びを広げるようにする。

〔第3学年〕

1 目 標 （理解と発信）

地獄と温泉の町博士を目指す活動を広げることを通して、次の資質・能力を身に付けるようにする。

- (1) 地域の人、もの、ことから課題を見出し解決する過程で必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を身に付けるようにする。
- (2) 地域に関する共通の課題に対して、自ら問いを立てながら、情報を集め、それを関連付けながら整理・分析して、仮説に応じたまとめ・表現を行い、協働して振り返り、評価・課題の更新を行うことができるようにする。
- (3) 他者の考えに関心を持って聞き、粘り強く自分の考えを伝えたり、調整したりして、よりよい解決方法を目指して新しい価値を創造しようとする態度を養う。

2 内 容

A コミュニケーション探究（表現の工夫と伝達の力）

- (1) ソーシャルスキルトレーニングのエクササイズを使ってグループで話し合いや質問を通して、共通点や違いを見付け、どうしてそう考えるのかを比べ、自分と他者の考え方や見え方に気づき、協力して関係を深めようとする。
- (2) 哲学対話の手法により自分たちで問いを立てて話し合いをし、「どうしてそう思うのか？」と考え、理由を伝えたり相手の考えを受け止めたりする力に気づき、違いを認めながら話し合おうとする。
- (3) シンキングツールを使って情報を整理する活動を通して、比較する、分類する、理由付ける、関連付ける等の方法を考え、整理分析する技法を身に付け、自分の考えを伝えようとする。

B グローカル探究（地域課題への気づきと役割意識）

- (1) 別府温泉の地獄めぐりや八湯を調べる活動を通して、地域の自然資源と観光の特色を理解し、別府の魅力と課題について考え、地域のよさを発信しようとするとともに、世界の温泉地との比較を通して、地域の魅力を国際的な視点で捉えようとする。

- (2) 別府の特産品や観光施設を紹介するパンフレットやTシャツを作る活動を通して、情報の伝え方やデザインの工夫を理解し、外国人観光客の視点を取り入れるなどして誰に何をどう伝えるかについて考え、効果的に発信しようとする。
- (3) 地域で働く人にインタビューする活動を通して、仕事と地域社会のつながりや地域の産業と世界とのつながりなどを理解し、自分たちの生活との関係について広い視野で考えながら、地域の一員として関わろうとする。

C マイ・キャリア探究（自己の役割意識と挑戦の意欲）

- (1) 自由研究として、趣味や地域の事象を数や形、順序などの視点で調べてまとめる活動を通して、情報の扱い方を身に付け、問いに向かって粘り強く考えようとするようにする。
- (2) 学級の係の仕事に取り組む活動を通して、役割を理解し、協力して働く方法を考え、仲間と支え合おうとするようにする。
- (3) 家庭の仕事に関わる活動を通して、家族の役割や自分の役割を考え、生活への理解を深め、進んで関わろうとするようにする。
- (4) 将来の夢と必要な力を考える活動を通して、自分の目標に向けた力を見付け、夢に向かう姿勢を育て、自分の未来に期待を持つようにする。

3 内容の取扱い

(1) 低学年で育てた力の発展的活用

第1・第2学年で育てた「気付き」「比較・整理」「交流・表現」等の力を基盤として、問いを深める活動や情報の整理・分析、他者との協働による探究活動へと発展させるようにする。

(2) 探究のプロセスを構造的に理解・活用する

探究活動の中で、問いの設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、振り返り・課題の更新といった一連のプロセスを意識的に扱い、児童が自分なりの探究の流れを理解し、活用できるようにする。

(3) 振り返りと課題の更新による学びの深化

活動後の振り返りを通して、自分の考えの変化や新たな問いに気付き、次の探究につなげる力を育てる。児童が自ら課題を更新し、探究を継続・発展させる姿勢を育ぶようにする。

〔第4学年〕

1 目 標 （構造化と提案）

火山と温泉の町で命と環境を守る活動を広げることを通して、次の資質・能力を身に付けるようにする。

- (1) 地域の人、もの、ことから課題を見出し解決する過程で必要な知識や技能を身に付け、課題に関わる概念を身に付けるようにする。
- (2) 地域に関する共通の課題に対して、自ら問いを立てながら、情報を集め、整理・分析して、仮説に応じたまとめ・表現を行い、協働による評価・課題の更新を行うとともに、課題解決や改善に向けて提案する力を育てる。
- (3) 他者の考えに関心を持って聞き、粘り強く自分の考えを伝えたり、調整したりして、よりよい解決方法を目指して新しい価値を創造しようとする態度を養う。

2 内 容

A コミュニケーション探究（多様な視点との対話と理解）

- (1) ソーシャルスキルトレーニングのエクササイズを使ってグループで話し合いや質問を通して共通点や違いを見付け、どうしてそう考えるのかを比べ、自分と他者の考え方や見え方に気付き、協力して関係を深めようとする。
- (2) 哲学対話の手法により自分たちで問いを立てて話し合いをし、「どうしてそう思うのか？」と考え、理由を伝えたり相手の考えを受け止めたりする力に気付き、違いを認めながら話し合おうとする。
- (3) シンキングツールを使って話し合いたい課題と、進めるために必要な思考力を見通して選び、情報を整理する技法を身に付け、解決に向けて話し合おうとする。

B グローカル探究（地域と世界の関係性の発見）

- (1) 給食の残菜や食品ロスについて調べる活動を通して、食と資源の関係を理解し、持続可能な消費について考え、世界の食料問題や SDGs の視点をもちながら食べ物を大切にしようとする。
- (2) ゴミ拾いやリサイクル活動を通して、環境問題の現状と取り組みを理解し、自分たちの生活との関係について考え、世界の環境保全活動なども比較しながら、環境を守る行動をしようとする。
- (3) 別府周辺や大分県の SDGs の取り組みを調べる活動を通して、地域の課題と努力を理解し、自分たちにできることについて考え、地域の未来に貢献しようとする。
- (4) 世界の環境問題に関する音楽や文化を調べる活動を通して、表現の力と多様な視点

を理解し、環境への思いを伝える方法について考え、創造的に発信しようとするとともに異なる文化の表現方法を尊重しようとする。

C マイ・キャリア探究（可能性の拡張と進路への関心）

- (1) 自由研究として、地域の事象や自分の興味をもとに、数理的な視点で調べてまとめる活動を通して、情報の整理・考察の力を高め、問いに向かって探究しようとするようにする。
- (2) 学級の係の仕事に取り組む活動を通して、役割を理解し、協力して働く方法を考え、仲間と支え合おうとするようにする。
- (3) 家庭や地域の仕事に関わる活動を通して、生活の工夫や役割を理解し、自分にできることを見付けて取り組み、進んで関わろうとするようにする。
- (4) 将来の夢と必要な力を考える活動を通して、自分の目標に向けた力を見付け、夢に向かう姿勢を育て、自分の未来に期待を持つようにする。

3 内容の取扱い

(1) 中学年としての探究力の発展的活用

第3学年で育てた「問いの深まり」「情報の整理・分析」「協働的な探究」の力を基盤として、課題への主体的な関わりや新しい価値の創造へと発展させるようにする。

(2) 地域との協働による実社会との接続

地域の人々や施設、自然や文化との関わりを通して、自分たちの生活が社会とつながっていることに気づき、課題意識を持つて探究に取り組むようにする。活動では、地域の人々と協働して活動を企画・実施する経験を通して、地域への関心や愛着を育むことを大切にする。

(3) 協働的な価値創造の進め方を育てる

グループでの話し合いや役割分担、他者の考えとの調整などを通して、協働的に探究を進める方法を身に付けるようにする。活動の中では、目的に応じた伝え方を工夫したり、他者と協力して新しい価値を創造したりする経験を通して、粘り強く取り組む姿勢や協働する態度を育てる。

〔第5学年〕

第1 目 標 （多面的分析と価値創造）

平和で災害に強い未来を創ることを考える活動を広げることを通して、次の資質・

能力を身に付けるようにする。

- (1) 現代的・歴史的、世界的な事象から課題を見出し解決する過程で必要な知識や技能を身に付け、課題に関わって多面的な視点から概念を身に付けるようにする。
- (2) 現代的・歴史的、世界的な諸課題から、自ら見出した課題について、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現、評価・課題の更新を行いながら、仮説検証や構造化することを通して、課題解決の方法を創造する力を育てる。
- (3) 多様な他者の考えを丁寧に聞き、粘り強く自分の考えを伝えたり、違いを調整したりして、より幸せな社会を目指して新しい価値を創造しようとする態度を養う。

第2 内 容

A コミュニケーション探究（協働的な関係の構築と発信）

- (1) ソーシャルスキルトレーニングのエクササイズを使って自分と他者の価値観や印象の違いを対話で確かめる活動を通して、どうすれば互いに理解し合えるかを考え、違いを受け止めながら合意形成する力に気づき、多様な関係性を築こうとする。
- (2) 哲学対話の手法により問いを立てて対話を重ね、「本当にそうなのか？」と考え直し、自分の考えを深めたり他者と共に問い続けたりする力に気づき、問いを通して新しい見方や価値を生み出そうとする。
- (3) シンキングツールを使って話し合いたい課題と、進めるために必要な思考力を見通して選び、情報を整理する技法を身に付け、解決に向けて話し合おうとする。

B グローカル探究（多文化理解と共生の視点）

- (1) 広島・長崎などの平和施設を見学する活動を通して、戦争と平和の歴史を理解し、平和な社会の在り方について考え、自分たちにできることを見付けようとするとともに、世界の紛争や平和活動にも目を向け、SDGsの「平和と公正」につながる行動を考えようとする。
- (2) 災害や減災について調べる活動を通して、自然災害のしくみと備えの重要性を理解し、安全な暮らしについて考え、地域での防災行動をしようとするとともに、世界の災害対応や国際支援の事例と比較しながら、グローバルな視点で防災の意義を考えようとする。
- (3) 異文化コミュニケーションに関する活動を通して、文化の違いや共生の意義を理解し、多様な人々との関わり方について考え、互いを尊重しようとするとともに、SDGsの「人や国の不平等をなくそう」の視点から、共生社会の実現に向けた課題を考えよ

うとする。

- (4) 平和をテーマにしたクレイアニメーション制作等を通して、表現の力と協働の大切さを理解し、平和への思いを伝える方法について国際的な視点を取り入れて考え、創造的に世界に向けたメッセージとして発信することを意識しようとする。

C マイ・キャリア探究（社会との接点と生き方の探究）

- (1) 自由研究として、地域の課題や自分の問いをもとに自由研究に取り組み、数理的・社会的な視点で整理・考察する力を高め、探究の質を深めようとする。
- (2) 学級や学校の係・委員会活動に取り組む活動を通して、役割を理解し、協力して働く方法を考え、仲間と支え合おうとするようにする。
- (3) 家庭や地域の仕事に関わる活動を通して、役割や働き方を考え、生活への理解を深め、進んで関わろうとするようにする。
- (4) 自分の夢と必要な力を考える活動を通して、将来の目標に向けた力を見付け、キャリア形成の視点を育て、自分の未来に期待を持つようにする。

3 内容の取扱い

(1) 探究のプロセスの自覚的な活用と社会との接続

第4学年までに育てた探究のプロセスを自覚的に活用しながら、自分の問いを地域や社会の課題とつなげて探究するようにする。活動では、情報の収集・分析・表現を通して、自分の考えを社会に向けて発信する力を育てる。

(2) 協働による価値創造と行動へのつながり

グループでの話し合いや役割分担を通して、協働的に探究を進める方法を身に付けるようにする。活動の中では、自分たちで考えたことを行動に移す経験を通して、粘り強く取り組む姿勢や、他者と協力して価値を創造する態度を育てる。

(3) 振り返りによる自己理解と学びの深化

活動後の振り返りを通して、自分の考えの変化や新たな問いに気づき、次の探究につなげる力を育てる。振り返りの中で、自分の成長や他者との関わりの意味を見出すようにする。

〔第6学年〕

I 目標（論理構成と社会参画）

国際社会に生きる人間を目指した活動を広げることを通して、次の資質・能力を身

に付けるようにする。

- (1) 現代的・歴史的、世界的な事象から課題を見出し解決する過程で必要な知識や技能を身に付け、課題に関わって多面的な視点から概念を身に付けるようにする。
- (2) 現代的・歴史的、世界的な諸課題から、自ら見出した課題について、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現、評価・課題の更新を行いながら、仮説検証や構造化を行うことを通して、新しい価値を創造する力を育てる。
- (3) 多様な他者の考えを丁寧に聞き、粘り強く自分の考えを伝えたり、違いを調整したりして、より幸せな社会を目指して新しい価値を創造しようとする態度を養う。

2 内 容

A コミュニケーション探究（論理的表現と社会との接続）

- (1) 自分の意見を論文や発表で伝える活動を通して、構成や根拠を明確にする力を働かせ、論理的な表現方法を身に付け、自分の考えを広く伝えようとするようにする。
- (2) 哲学対話の手法により問いを立てて対話を重ね、「本当にそうなのか？」と考え直し、自分の考えを深めたり他者と共に問い続けたりする力に気づき、問いを通して新しい見方や価値を有無だそうとする。
- (3) シンキングツールを使って話し合いたい課題と、進めるために必要な思考力を見通して、情報を整理する技法を身に付け、解決に向けて話し合おうとする。

B グローカル探究（地域・世界課題への主体的関わり）

- (1) 大分の先人（大友宗麟・中村裕など）について調べる活動を通して、地域の歴史と貢献を理解し、自分たちの未来とのつながりについて考え、地域の発展に向けて行動しようとする。
- (2) 地域の課題や取り組みを調べる活動を通して、社会のしくみと課題解決の方法を理解し、自分たちの役割について考え、地域に貢献しようとする。
- (3) 探究科での学びを論文にまとめる活動を通して、情報の整理と伝え方を理解し、自分の考えを深める方法について考え、論理的に発信しようとする。
- (4) 地域の人との交流や協働活動を通して、共に生きる社会のあり方を理解し、人との関わりの意味について考え、積極的に関わろうとする。

C マイ・キャリア探究（価値観の深化と未来構想の形成）

- (1) 自由研究として、地域の課題や自分の問いをもとに自由研究に取り組み、数理

的・社会的な視点で整理・考察する力を高め、探究の質を深めようとする。

- (2) 学校の係・委員会活動や地域との連携活動に取り組む活動を通して、役割を理解し、協力して働く方法を考え、仲間と支え合おうとするようにする。
- (3) 家庭や地域の仕事に関わる活動を通して、社会とのつながりや自分の役割を考え、生活への理解を深め、進んで関わろうとするようにする。
- (4) 自分の夢と必要な力を考える活動を通して、将来の目標に向けた力を見付け、キャリア形成の視点を育て、自分の未来に期待を持つようにする。

3 内容の取扱い

(1) 教育目標との接続を意識した探究の展開

学校の教育目標にある「創造力」「人間性」「行動力」への到達を意識しながら、自分の問いを深め、社会とのつながりの中で探究を進めるようにする。活動では、自分の考えを社会に向けて発信し、行動に移す経験を通して、教育目標に重なる力を育てる。

(2) 協働による創造的な実践の経験

他者と協働して課題を解決したり、新しい価値を創造したりする活動を通して、自分の個性を生かしながら、仲間とともによりよい社会を目指す姿勢を育てる。活動の中では、自分の役割を果たしながら他者の考えを尊重し、調整・統合する力を育てる。

(3) 振り返りと自己の在り方の探究

活動後の振り返りを通して、自分の成長や課題への向き合い方を見直し、自分の生き方や社会との関わり方について考える力を育てる。児童が自らの探究を通して、自分の未来に期待をもち、学び続けようとする姿勢を育むようにする。

第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 年間・単元の見通しと資質・能力の育成

- ・年間及び単元のまとまりを見通し、探究的な見方・考え方を働かせながら、情報活用能力、言語能力、問題発見・解決能力などの資質・能力の育成を図り、探究力として総合的に発揮できるようにする。
- ・低学年においては、児童が具体的な活動や体験を通して、身近な生活や地域・社会・自然との関わりを実感できるようにする。

- ・全学年にわたって、地域探究、フィールドワーク、交流活動などの校外活動を積極的に取り入れ、実社会との接続を促す。

(2) 発達段階を踏まえた2学年毎の見通し

探究科の指導に当たっては、児童の発達段階に応じた2学年間のまとまりを意識し、資質・能力の育成を段階的かつ連続的に図るようにする。

- ・低学年では、児童が身近な生活や環境に親しみをもちながら、「思いや願いを持つ」「活動や体験をする」「感じる・考える・気付く」「表現する・振り返る」といった探究の基礎的な活動に自然に取り組めるようにする。活動の中で、思考の芽生えや他者との関わりの楽しさを感じられるようにし、探究的な見方・考え方の土台を育てることに留意する。
- ・中学年では、児童が自らの問いを深め、仲間と協働しながら探究を進める力を育てるようにする。活動の中では、情報の整理・分析を通して価値を見出したり、地域や社会とのつながりを実感したりする経験を重ね、探究のプロセスを構造的に理解できるようにすることが大切である。
- ・高学年では、児童が自覚的な探究者として、自分の問いを社会的な課題と結びつけながら、発信や行動に移す力を育てるようにする。活動の中では、他者と協働して新しい価値を創造したり、自分の考えを振り返って自己の在り方を探究したりする経験を通して、教育目標に重なる力の育成を意識する。

(3) 継続的な活動の設定

- ・児童の興味・関心に応じた継続的なテーマ（例：地域の自然、人との関わり、生活改善）を設定し、長期的な探究活動を行う。特に、私立学校として、幼児教育施設との架け橋づくりを進めて、様々な園から安心して入学してこることができるように、低学年だけでなく、中・高学年においても幼児との交流活動を適宜位置付け、どのような角度からでも、学校の魅力を伝えたり、小学校のよさを伝えたりして学んだことをアウトプットしながら学んだことを概念化できるようにする。
- ・自由研究やキャリアに関する取組などは、学年を越えて弾力的かつ継続的に取り組むことができるようにする。

(4) 他教科等との関連と幼児期との接続

- ・他教科等との合科的・関連的・総合的な指導を積極的に図り教育全体の充実を図る。
- ・特に低学年では、幼児期の「遊びを通した総合的な学び」から、小学校での「自覚的な学び」への移行を円滑に進める。また、柔軟な時間割や体験活動を通して、そ

の後の探究科の基礎を築く。

(5) 障害のある児童への配慮

- ・探究活動において生じる特に事態の急変や計画推進の困難さなどに応じて、指導内容や方法を計画的・組織的に工夫する。
- ・活動の場面では、周囲の児童が多様な特性を尊重し、共に学び合う姿勢を育てる。

(6) 道徳教育との関連

- ・探究科の活動（例：平和・共生・地域貢献・命の尊重など）において、道徳科の目標や内容と関連付けて指導する。
- ・探究の過程で、価値判断や他者理解を深める場면을意図的に設ける。

2. 内容の取扱いに当たっての配慮事項

(1) 地域・社会・自然の一体的な活用

- ・地域の人々・施設・自然・文化資源を活かし、それらを一体的に扱う探究活動を工夫する。
- ・地域探究・交流・環境調査などを通して、実社会とのつながりを実感できるようにする。

(2) 多様な表現活動の充実

- ・探究活動の成果や気付きは、言葉・絵・図・劇・動画など多様な方法で表現できるようにする。
- ・表現を通して、気付きの確かさや関連性を深めるように工夫する。

(3) 多様な思考活動の導入

- ・順序付ける、比較する、分類する、関連付ける、多面的・多角的に見る、理由付ける、見通す、具体化する、抽象化する、構造化する、焦点化する、予想する、変化を捉える、広げて見る、要約する等の12の思考スキルを探究の過程に組み込む。
- ・シンキングツールや対話活動を活用し、思考の可視化と共有を促す。

(4) 情報機器等の適切な活用

- ・ICTや図書資料などの情報手段を、児童の発達段階や探究科の特性に応じて適切に活用する。その際IT支援員や図書館司書と連携して専門的かつ効果的な指導を行う。
- ・情報モラルや基本操作についても、探究活動の中で適宜指導する。

(5) 多様な人との触れ合い

- ・ 幼児・高齢者・障害のある人など、多様な人々との交流活動を通して、他者理解と共生の態度を育てる。特に、県内の幼稚園・保育園・こども園からの交流依頼に応じて、探究科の活動内容に組み込み、対象者のニーズに合ったおもてなしの気持ちで交流を深めるようにする。
- ・ 地域との連携を通じて、実社会での関わりを体験できるようにする。

(6) 習慣・技能の指導

- ・ 探究活動の中で、生活上必要な習慣（例：計画・記録・協力・安全）や技能（例：調査・発表・まとめ）を適宜指導する。
- ・ 自分自身・社会・自然との関わりを通して、実践的な力を育てる。

<資料1>指導時間数一覧（標準授業時数との対比）

学年		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
合計		905 (850) +55	965 (910) +55	1035 (980) +55	1070 (1015) +55	1065 (1015) +50	1065 (1015) +50
各教科の授業時数	国語	302 (306) -4	310 (315) -5	240 (245) -5	240 (245) -5	170 (175) -5	170 (175) -5
	社会	-	-	65 (70) -5	85 (90) -5	95 (100) -5	100 (105) -5
	算数	132 (136) -4	170 (175) -5	170 (175) -5	170 (175) -5	205 (175) +30	205 (175) +30
	理科	-	-	85 (90) -5	100 (105) -5	100 (105) -5	100 (105) -5
	生活	15 (102) -87	25 (105) -80	-	-	-	-
	音楽	64 (68) -4	65 (70) -5	55 (60) -5	55 (60) -5	45 (50) -5	45 (50) -5
	図画工作	64 (68) -4	65 (70) -5	55 (60) -5	55 (60) -5	45 (50) -5	45 (50) -5
	家庭	-	-	-	-	55 (60) -5	50 (55) -5
	体育	98 (102) -4	100 (105) -5	100 (105) -5	100 (105) -5	85 (90) -5	85 (90) -5
	外国語	-	-	-	-	0 (70) -70	0 (70) -70
特別の教科である道徳の授業時数		30 (34) -4	30 (35) -5	30 (35) -5	30 (35) -5	30 (35) -5	30 (35) -5
外国語活動の授業時数		-	-	0 (35) -35	0 (35) -35	-	-
総合的な学習の時間の授業時数		-	-	0 (70) -70	0 (70) -70	0 (70) -70	0 (70) -70
特別活動の授業時数		30 (34) -4	30 (35) -5	30 (35) -5	30 (35) -5	30 (35) -5	30 (35) -5
英語		65	65	65	65	100	100
探究		105	105	140	140	105	105

<資料2>領域毎の時間配分の目安

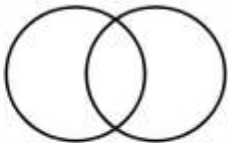
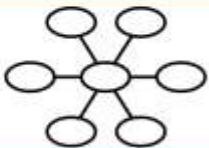
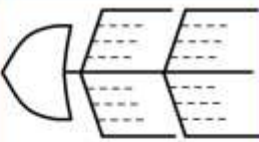
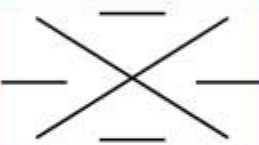
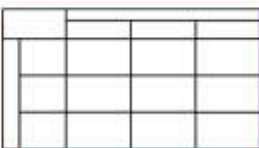
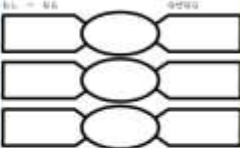
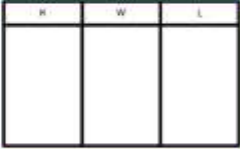
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
A コミュニケーション探究	20	20	25	25	20	20
B グローカル探究	70	70	90	90	60	60
C マイ・キャリア探究	15	15	25	25	25	25
合計	105	105	140	140	105	105

※A領域については、朝の時間（22.5分）の年間40コマも活用して計画的に行う。

<資料3> 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の3つの柱と探究力への統合

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性等
言語能力	〔言葉の役割・使い方、言語文化の理解〕 言葉の働きや役割に関する理解、言葉の特徴やきまりに関する理解と使い分け、言葉の使い方に関する理解と使い分け、言語文化に関する理解、既有知識（教科に関する知識、一般常識、社会的規範等）に関する理解。	〔情報の構造化、感情や想像の言語化、伝え合う力〕 テキスト（情報）を理解したり、文章や発話により表現したりする力の力として、情報を多面的・多角的に精査し構造化する力、言葉によって感じたり想像したりする力、感情や想像を言葉にする力、言葉を通じて伝え合う力、構成・表現形式を評価する力、考えを形成し深める力。	〔他者との対話、言語文化の担い手としての自覚、豊かな心で学ぶ態度〕 言葉を通じて、社会や文化を創造しようとする態度、自分のものの見方や考え方を広げ深めようとする態度、集団としての考えを発展・深化させようとする態度、心を豊かにしようとする態度、己や他者を尊重しようとする態度、自分の感情をコントロールして学びに向かう態度、言語文化の担い手としての自覚。
情報活用能力	〔情報技術の活用、情報の扱い方、社会的マナー〕 情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けていること。	〔情報の関連付けと意味づけ、適切な技術活用〕 様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結びつけて新たな意味を見出す力や、問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けていること。	〔情報社会への主体的参画、倫理的態度、責任ある行動〕 情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けていること。
問題発見・解決能力	〔問題設定・情報収集・表現に必要な知識と技能〕 ＊問題を見いだしたり、課題を設定したりするために必要な知識や技能。 ＊問題の解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、考えをまとめ・表現したりするために必要な知識や技能。	〔問題の見通し、計画、実行、振り返りと更新〕 ＊事実・事象から問題を見出したり、課題を設定したり、問題の解決の見通しを持ち、解決の方向や筋道を決めたり計画を立てる力。 ＊結果を推測しながら計画を実行し、解決に向けて情報を収集・整理・分析したり、考えをまとめ・表現したり、課題を更新したりする力。	〔粘り強い試行錯誤、協働的な問題解決への姿勢、自らの学びを調整する態度〕 ＊試行錯誤したり見通しを付けたりしながら問題を発見したり、自らの学習を振り返りよりよい問題を発見したりしようとする態度。 ＊主体的に他者と関わり、自らの学習を調整しながら問題を解決したり、自らの学習を振り返り、よりよく問題を解決したりしようとする態度
探究力へ統合	言葉や情報を適切に扱い、探究の基盤となる知識・技能を習得する。	情報と情報技術を活用し、言語を通じて思考を構造化し、探究的に表現する力を育む。	他者となつながら、言葉と情報を通じて協働し、探究を通じて人間性を育む。

<資料4>シンキングツールと思考スキルとの関連

ツール名	形	できること	考えるための技法 (思考スキル)
ベン図		共通点と相違点を見つける	比較する
イメージ マップ		アイデアを出す	関係づける／関連付 ける／評価する
ステップ チャート		順序を整理する	順序づける
フィッシュ ボーン図		事象の要因を探る	構造化する／具体化 する／抽象化する
Xチャート		複数の視点から捉える	多面的・多角的に見 る／分類する
マトリクス (表)		関係の有無や関連度合 いを示す	分類する／整理する ／比較する／多面 的・多角的に見る
クラゲ チャート		理由を挙げて 具体的に示す	理由づける／具体化 する／抽象化する
キャンディ チャート		仮定・条件に基づいて 結果を予測し根拠を示 す	仮定する／予想する ／推論する
KWL チャート		「知っていること」「知 りたいこと」「分かった こと」を整理する	見通す
座標軸		2つの軸で整理し位置 付けを明確にする	順序付ける／比較す る

<資料 5> 探究科の内容構成

学年	領域	内容	学習内容・学習活動等	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、表現力等
I	A	(1)	SST で好きなものや得意なことを伝え合う	自分や相手の良さに気付く	似ている点を考える	友達に親しみをもとうとする
		(2)	哲学対話で「なんでだろう？」を考える	自分や友達の考えを聞く力に気付く	問いを考える・話し合う	いろいろな考えを楽しく聞こうとする
		(3)	シンキングツールで情報を整理する	整理分析の技法を身に付ける	比較・分類・理由付け・関連付け	自分の考えを伝えようとする
	B	(1)	学校探検・通学路の観察	学校生活を支える人や施設の理解	関係性に気付く	安心して生活・登下校しようとする
		(2)	家庭の仕事を見付けて行う	家庭の支え合いや役割の理解	世界の家庭との違いに気付く	健康に気を付けて生活しようとする
		(3)	国内外の遊びを体験する	遊びのルールや文化の違いに気付く	自然や価値観の多様性を感じる	楽しく遊びを創り出そうとする
		(4)	幼児との交流	相手の思いや文化的背景を想像する	伝え方を工夫する	多様性への理解を深め交流しようとする
	C	(1)	自由研究	数や形に着目してまとめる	筋道立てて考える力	粘り強く問いに向かおうとする
		(2)	学級の係の仕事	得意なことや興味を生かす	協力して働く方法	仲間と支え合おうとする
		(3)	家庭の仕事に関わる	家族の役割や自分にできることを考える	家庭生活の理解	進んで家庭に関わろうとする
		(4)	将来の夢を描く	興味や願いを言葉にする	夢に向かう姿勢	自分の未来に期待を持つ
2	A	(1)	SST で好きなものや得意なことを伝え合う	自分や相手の良さに気付く	似ている点を考える	友達に親しみを持とうとする
		(2)	哲学対話で「なんでだろう？」を考える	自分や友達の考えを聞く力に気付く	問いを考える・話し合う	楽しく話し合おうとする
		(3)	シンキングツールで情報を整理する	整理分析の技法を身に付ける	比較・分類・理由付け・関連付け	自分の考えを伝えようとする
	B	(1)	地域探検	地域の人々の暮らしや働き方の理解	世界とのつながりに気付く	親しみや愛着を持つて生活しようとする

		(2)	異文化交流	遊びや道具の文化的違いに気付く	多様な価値観の理解	楽しく交流しようとする
		(3)	自分の成長を物語にまとめる	支えてくれた人や文化的背景の理解	感謝の気持ちを持つ	世界への関わりに願いを持って生活しようとする
	C	(1)	自由研究	数・順序・分類などで整理	データや図表でまとめる力	問いに向かって考えようとする
		(2)	学級の係の仕事	役割を理解し協力する	クラス活動の進め方	仲間と支え合おうとする
		(3)	家庭や地域の仕事に関わる	生活の工夫や役割の理解	自分にできることを見付ける	進んで関わろうとする
		(4)	将来の夢を描く	興味や願いを言葉にする	夢に向かう姿勢	自分の未来に期待を持つ
3	A	(1)	SSTでグループで話し合い・質問	共通点や違いを比べる	自他の考え方に気付く	協力して関係を深めようとする
		(2)	哲学対話で問いを立てて話し合う	理由を伝え受け止める力	違いを認めて話し合う	対話を楽しもうとする
		(3)	シンキングツールで情報整理	整理分析の技法を身に付ける	比較・分類・関連付け	自分の考えを伝えようとする
	B	(1)	地獄めぐり・八湯の調査	自然資源と観光の理解	地域の魅力と課題に気付く	国際的視点で発信しようとする
		(2)	パンフレット・Tシャツ制作	情報の伝え方とデザインの工夫	伝達の目的と方法を考える	効果的に発信しようとする
		(3)	地域で働く人へのインタビュー	仕事と地域社会のつながり理解	地域産業と世界との関係に気付く	地域の一員として関わろうとする
	C	(1)	自由研究（趣味や地域）	数・形・順序で調べてまとめる	情報の扱い方を身に付ける	粘り強く問いに向かおうとする
		(2)	学級の係の仕事	役割を理解し協力する	働き方を考える	仲間と支え合おうとする
		(3)	家庭の仕事に関わる	家族の役割と自分の役割を考える	生活への理解を深める	進んで関わろうとする
		(4)	将来の夢と必要な力を考える	目標に向けた力を見付ける	夢に向かう姿勢を育てる	自分の未来に期待を持つ

4	A	(1)	SST でグループで話し合い・質問	共通点や違いを比べる	自他の考え方に気付く	協力して関係を深めようとする
		(2)	哲学対話で問いを立てて話し合う	理由を伝え受け止める力	違いを認めて話し合う	対話を楽しもうとする
		(3)	シンキングツールで課題と必要な思考力を見通す	情報整理の技法を身に付ける	解決に向けて話し合う	協働的に進めようとする
	B	(1)	給食残菜・食品ロスの調査	食と資源の関係理解	持続可能な消費を考える	食べ物を大切にしようとする
		(2)	ゴミ拾い・リサイクル活動	環境問題と取り組みの理解	世界の活動と比較	環境を守る行動をしようとする
		(3)	地域の SDGs 調査	地域課題と努力の理解	自分にできることを考える	地域の未来に貢献しようとする
		(4)	環境問題に関する音楽・文化の調査	表現の力と多様な視点の理解	伝える方法を考える	創造的に発信しようとする
	C	(1)	自由研究（数理的視点）	情報の整理・考察の力を高める	問いに向かって探究する	粘り強く取り組もうとする
		(2)	学級の係の仕事	役割を理解し協力する	働き方を考える	仲間と支え合おうとする
		(3)	家庭や地域の仕事に関わる	生活の工夫や役割の理解	自分にできることを見付ける	進んで関わろうとする
		(4)	将来の夢と必要な力を考える	目標に向けた力を見付ける	夢に向かう姿勢を育てる	自分の未来に期待を持つ
5	A	(1)	SST で価値観や印象の違いを対話で確かめる	合意形成の力に気付く	違いを受け止める	多様な関係性を築こうとする
		(2)	哲学対話で問いを立てて対話を重ねる	考え直す力・問い続ける力	新しい見方や価値を生む	対話を通して深めようとする
		(3)	シンキングツールで課題と必要な思考力を見通す	情報整理の技法を身に付ける	解決に向けて話し合う	協働的に進めようとする
	B	(1)	平和施設見学（広島・長崎）	戦争と平和の歴史理解	平和な社会の在り方を考える	SDGs「平和と公正」につなげようとする
		(2)	災害・減災の調査	自然災害と備えの理解	地域と世界の防災を比較	グローバルな視点で考えようとする

6		(3)	異文化コミュニケーション活動	文化の違いと共生の意義理解	関わり方を考える	共生社会の課題を考えようとする
		(4)	平和をテーマにしたクリエイティブアニメ制作	表現の力と協働の理解	国際的視点で伝える方法を考える	世界に向けて発信しようとする
	C	(1)	自由研究（地域課題や自分の問い）	情報の整理・考察の力を高める	仮説検証・構造化	課題解決の方法を創造しようとする
		(2)	学級の係の仕事	役割を理解し協力する	働き方を考える	仲間と支え合おうとする
		(3)	家庭や地域の仕事に関わる	生活の工夫や役割の理解	自分にできることを見付ける	進んで関わろうとする
		(4)	将来の夢と必要な力を考える	目標に向けた力を見付ける	夢に向かう姿勢を育てる	自分の未来に期待を持つ
	A	(1)	SSTで価値観や印象の違いを対話で確かめる	合意形成の力に気付く	違いを受け止める	多様な関係性を築こうとする
		(2)	哲学対話で問いを立てて対話を重ねる	考え直す力・問い続ける力	新しい見方や価値を生む	対話を通して深めようとする
		(3)	シンキングツールで課題と必要な思考力を見通す	情報整理の技法を身に付ける	解決に向けて話し合う	協働的に進めようとする
	B	(1)	地域の未来を考えるプロジェクト	地域課題の構造理解	持続可能な社会の提案	地域に貢献しようとする姿勢を育てる
		(2)	世界の課題と地域のつながりを調べる	グローバルな視点での課題理解	地域と世界の関係性を構造化	国際社会の一員として行動しようとする
		(3)	多文化共生の課題を探究する	異文化理解と共生の意義を深める	課題の構造化と提案	共生社会の実現に向けて考えようとする
		(4)	自分たちの思いを発信する活動（映像・展示など）	表現の技法と発信の構成理解	社会に向けたメッセージの創造	自覚的に発信しようとする態度を育てる
	C	(1)	自由研究（社会との接点を持つテーマ）	情報の収集・分析・構造化	課題解決の方法を創造	自分の問いに向かって探究し続けようとする
		(2)	学級の係の仕事	役割を理解し協力する	働き方を考える	仲間と支え合おうとする
		(3)	家庭や地域の仕事に関わる	生活の工夫や役割の理解	自分にできることを見付ける	進んで関わろうとする
		(4)	将来の夢と社会とのつながりを考える	自分の目標と社会的意義を結びつける	夢に向かう姿勢を育てる	自分の未来に責任と期待を持つ

＜資料 6＞A 領域の年間活動計画例

A領域 第1学年 年間活動計画

1学期		2学期		3学期	
1	SST あいさつゲーム	1	SST アドジャントーク	1	哲学対話
2	哲学対話	2	哲学対話	2	TT ステップチャート
3	TT 座標軸（好き嫌い）	3	TT Yチャート	3	SST 質問じゃんけん
4	SST 表情まねっこ	4	SST わたしのしたいこと	4	哲学対話
5	哲学対話	5	哲学対話	5	TT 座標軸（2軸）
6	TT 座標軸（嬉しい悲しい）	6	TT Yチャート	6	SST アドジャントーク
7	SST 順番ならび	7	SST あいさつゲーム	7	哲学対話
8	哲学対話	8	哲学対話	8	TT 座標軸（2軸）
9	TT くらげチャート	9	TT ウェビング	9	SST わたしのしたいこと
10	SST ありがとうボール	10	SST 表情まねっこ		
11	哲学対話	11	哲学対話	※ SST…ソーシャルスキルトレーニング TT…シンキングツール	
12	TT くらげチャート	12	TT ウェビング		
13	SST 質問じゃんけん	13	SST 順番ならび		
14	哲学対話	14	哲学対話		
15	TT くらげチャート	15	TT ステップチャート		
		16	SST ありがとうボール		

哲学対話 テーマ例

友だちってなに

どうして怒ったり笑ったりするの
おもちゃはだれのもの

こわいものってどこにある
好きなことと楽しいことは同じかな
どうしてごはんを食べるの

あいさつゲーム 「おはよう」「こんにちは」に続けて今日の朝ごはんなどを話す。QA入っても良い。ペアでも全体へ発表でも。

表情まねっこ 表情カードを引き、その表情をまねる。友達と何の表情か当てあう。

順番ならび お題に沿って並び替え。背の順・誕生日順・あいうえお順など

ありがとうボール 「〇〇さん□□してくれてありがとう」と言ってボールを渡していくリレー

質問じゃんけん じゃんけんをし、勝ったほうが負けたほうに何か質問。1分後交代。

アドジャントーク トークテーマを7つ準備しておく。アドジャンの掛け声で、じゃんけんのグー、もしくは指を1～3本出す。二人の合計の指の本数の番号のトークテーマでお話をする。

わたしのしたいこと 例したいこと5つ ほしいもの5つ おねがいごと3つ をメモし紹介しあう。

A領域 第2学年 年間活動計画

1学期		2学期		3学期	
1	SST あいさつゲーム	1	SST アドジャントーク	1	哲学対話
2	哲学対話	2	哲学対話	2	TT 座標軸(2軸)
3	TT Xチャート	3	TT 座標軸(2軸)	3	SST 質問じゃんけん
4	SST 表情まねっこ	4	SST わたしのしたいこと	4	哲学対話
5	哲学対話	5	哲学対話	5	TT マトリックス表
6	TT Xチャート	6	TT ウェビング	6	SST アドジャントーク
7	SST 順番ならび	7	SST あいさつゲーム	7	哲学対話
8	哲学対話	8	哲学対話	8	TT マトリックス表
9	TT ステップチャート	9	TT ウェビング	9	SST わたしのしたいこと
10	SST ありがとうボール	10	SST 表情まねっこ		
11	哲学対話	11	哲学対話	※ SST…ソーシャルスキルトレーニング TT…シンキングツール	
12	TT ステップチャート	12	TT ステップチャート		
13	SST 質問じゃんけん	13	SST 順番ならび		
14	哲学対話	14	哲学対話		
15	TT 座標軸(2軸)	15	TT ステップチャート		
		16	SST ありがとうボール		

哲学対話 テーマ例

ずるをしたらどうなる
 うそはなぜいけないの
 みんな同じじゃなくてもいいの
 どうして泣くの
 なぜ空は青いの
 物はだれのためにあるの

あいさつゲーム 「おはよう」「こんにちは」に続けて今日の朝ごはんなどを話す。QA入れても良い。ペアでも全体へ発表でも。

表情まねっこ 表情カードを引き、その表情をまねる。友達と何の表情か当てあう。

順番ならび お題に沿って並び替え。背の順・誕生日順・あいうえお順など

ありがとうボール 「〇〇さん□□してくれてありがとう」と言ってお球を渡していくリレー

質問じゃんけん じゃんけんをし、勝ったほうが負けたほうに何か質問。1分後交代。

アドジャントーク トークテーマを7つ準備しておく。アドジャンの掛け声で、じゃんけんのグー、もしくは指を1～3本出す。二人の合計の指の本数の番号のトークテーマでお話をする。

わたしのしたいこと 例したいこと5つ ほしいもの5つ おねがいごと3つ をメモし紹介しあう。

A領域 第3学年 年間活動計画

1学期		2学期		3学期	
1	SST 声かけロールプレイ	1	SST アドジャントーク	1	哲学対話
2	哲学対話	2	哲学対話	2	TT ピラミッドチャート上向き
3	TT ベン図	3	TT ウェビング	3	SST 質問じゃんけん
4	SST 聞き方チャレンジ	4	SST わたしのしたいこと	4	哲学対話
5	哲学対話	5	哲学対話	5	TT キャンディーチャート
6	TT ベン図	6	TT ウェビング	6	SST アドジャントーク
7	SST 二者択一	7	SST 声かけロールプレイ	7	哲学対話
8	哲学対話	8	哲学対話	8	TT キャンディーチャート
9	TT メリットデメリット	9	TT ダイヤモンドランキング	9	SST わたしのしたいこと
10	SST 感情当てゲーム	10	SST 聞き方チャレンジ		
11	哲学対話	11	哲学対話	※ SST…ソーシャルスキルトレーニング TT…シンキングツール	
12	TT メリットデメリット	12	TT ダイヤモンドランキング		
13	SST 質問じゃんけん	13	SST 二者択一		
14	哲学対話	14	哲学対話		
15	TT ウェビング	15	TT ピラミッドチャート上向き		
		16	SST 感情当てゲーム		

哲学対話 テーマ例

勇気ってなに
 どうしてルールがあるの
 友情とやさしさの違いは
 なぜ勉強するの
 時間って何
 幸せってどんなこと

声かけロールプレイ 日常のとある場面を取り出し、どのように声をかけるか考えて演じる

聞き方チャレンジ グループの一人に1分間スピーチをしてもらったことを、要点をまとめなおして発表する。

二者択一 山と海などテーマを決めてグループ分けし、ディスカッションを行う

感情当てゲーム 日常のとある場面を演じ、どんな気持ちになっているのかを話し合う

質問じゃんけん じゃんけんをし、勝ったほうが負けたほうに何か質問。1分後交代。

アドジャントーク トークテーマを7つ準備しておく。アドジャンの掛け声で、じゃんけんのグー、もしくは指を1～3本出す。二人の合計の指の本数の番号のトークテーマでお話をする。

わたしのしたいこと 例したいこと5つ ほしいもの5つ おねがいごと3つ をメモし紹介しあう。

A領域 第4学年 年間活動計画

1学期		2学期		3学期	
1	SST 声かけロールプレイ	1	SST アドジャントーク	1	哲学対話
2	哲学対話	2	哲学対話	2	TT フィッシュボーン
3	TT ピラミッドチャート下向き	3	TT ペン図(3円)	3	SST 質問じゃんけん
4	SST 聞き方チャレンジ	4	SST わたしのしたいこと	4	哲学対話
5	哲学対話	5	哲学対話	5	TT フィッシュボーン
6	TT ピラミッドチャート下向き	6	TT くまでチャート	6	SST アドジャントーク
7	SST 二者択一	7	SST 声かけロールプレイ	7	哲学対話
8	哲学対話	8	哲学対話	8	TT フィッシュボーン
9	TT PMI	9	TT くまでチャート	9	SST わたしのしたいこと
10	SST 感情当てゲーム	10	SST 聞き方チャレンジ		
11	哲学対話	11	哲学対話	※ SST…ソーシャルスキルトレーニング TT…シンキングツール	
12	TT PMI	12	TT 成分分析表		
13	SST 質問じゃんけん	13	SST 二者択一		
14	哲学対話	14	哲学対話		
15	TT ペン図(3円)	15	TT 成分分析表		
		16	SST 感情当てゲーム		

哲学対話 テーマ例

自由って何

正しいこととしたいことは同じ？

命はなぜ大事なの

なぜ自然を守らないといけないの

失敗は悪いこと？

人はなぜ争うの

声かけロールプレイ 日常のとある場面を取り出し、どのように声をかけるか考えて演じる

聞き方チャレンジ グループの一人に1分間スピーチをしてもらったことを、要点をまとめなおして発表する。

二者択一 山と海などテーマを決めてグループ分けし、ディスカッションを行う

感情当てゲーム 日常のとある場面を演じ、どんな気持ちになっているのかを話し合う

質問じゃんけん じゃんけんをし、勝ったほうが負けたほうに何か質問。1分後交代。

アドジャントーク トークテーマを7つ準備しておく。アドジャンの掛け声で、じゃんけんのグー、もしくは指を1～3本出す。二人の合計の指の本数の番号のトークテーマでお話をする。

わたしのしたいこと 例したいこと5つ ほしいもの5つ おねがいごと3つ をメモし紹介しあう。

A領域 第5学年 年間活動計画

1学期		2学期		3学期	
1	SST 褒め合いタイム	1	SST わたしのしたいこと	1	哲学対話
2	哲学対話	2	哲学対話	2	TT フィッシュボーン
3	TT 情報分析チャート	3	TTでまとめてみよう	3	SST わたしのしたいこと
4	SST 私の5面鏡	4	SST 褒め合いタイム	4	哲学対話
5	哲学対話	5	哲学対話	5	TT フィッシュボーン
6	TT 情報分析チャート	6	TTでまとめたことを発表しよう	6	SST 1分間スピーチ
7	SST SOSサバイバル	7	SST 私の5面鏡	7	哲学対話
8	哲学対話	8	哲学対話	8	TT フィッシュボーン
9	TT バタフライチャート	9	TTでまとめたことを発表しよう	9	SST 1分間スピーチ
10	SST 質問じゃんけん	10	SST SOSサバイバル		
11	哲学対話	11	哲学対話	※ SST…ソーシャルスキルトレーニング TT…シンキングツール	
12	TT バタフライチャート	12	TTでまとめたことを議論しよう		
13	SST アドジャントーク	13	SST 質問じゃんけん		
14	哲学対話	14	哲学対話		
15	TTでまとめてみよう	15	TTでまとめたことを議論しよう		
		16	SST アドジャントーク		

哲学対話 テーマ例
正義って何だろう
未来を予想することはできる？
才能と努力どっちが大事
幸せはお金で買える？
なぜ人は助け合うの？
ルールは守るべき？変えていくべき？

褒め合いタイム	ペアを組んで順番を決めて相手のいいところを言い合う。(グループでも可)
私の5面鏡	5人の友達にワークシートに沿って書き込んでもらい自己理解につなげる。
SOSサバイバル	ワークシートに沿ってグループで課題に取り組む
質問じゃんけん	じゃんけんをし、勝ったほうが負けたほうに何か質問。1分後交代。
アドジャントーク	トークテーマを7つ準備しておく。アドジャンの掛け声で、じゃんけんのグー、もしくは指を1～3本だす。二人の合計の指の本数の番号のトークテーマでお話をする。
わたしのしたいこと	例したいこと5つ ほしいもの5つ おねがいごと3つ をメモし紹介しあう。

A領域 第6学年 年間活動計画

1学期		2学期		3学期	
1	SST 褒め合いタイム	1	SST わたしのしたいこと	1	哲学対話
2	哲学対話	2	哲学対話	2	TT フィッシュボーン
3	TT 情報分析チャート	3	TTでまとめてみよう	3	SST わたしのしたいこと
4	SST 私の5面鏡	4	SST 褒め合いタイム	4	哲学対話
5	哲学対話	5	哲学対話	5	TT フィッシュボーン
6	TT 情報分析チャート	6	TTでまとめたことを発表しよう	6	SST 1分間スピーチ
7	SST SOSサバイバル	7	SST 私の5面鏡	7	哲学対話
8	哲学対話	8	哲学対話	8	TT フィッシュボーン
9	TT バタフライチャート	9	TTでまとめたことを発表しよう	9	SST 1分間スピーチ
10	SST 質問じゃんけん	10	SST SOSサバイバル		
11	哲学対話	11	哲学対話	※ SST…ソーシャルスキルトレーニング TT…シンキングツール	
12	TT バタフライチャート	12	TTでまとめたことを議論しよう		
13	SST アドジャントーク	13	SST 質問じゃんけん		
14	哲学対話	14	哲学対話		
15	TTでまとめてみよう	15	TTでまとめたことを議論しよう		
		16	SST アドジャントーク		

哲学対話 テーマ例

生きる意味って何？

自由には責任がついている？

人は何のために学ぶのか

平和はどうやったら作れる？

過去の自分に一つだけ教えてあげるとしたら？

未来の自分に一つだけ質問できるとしたら？

褒め合いタイム ペアを組んで順番を決めて相手のいいところを言い合う。(グループでも可)

私の5面鏡 5人の友達にワークシートに沿って書き込んでもらい自己理解につなげる。

SOSサバイバル ワークシートに沿ってグループで課題に取り組む

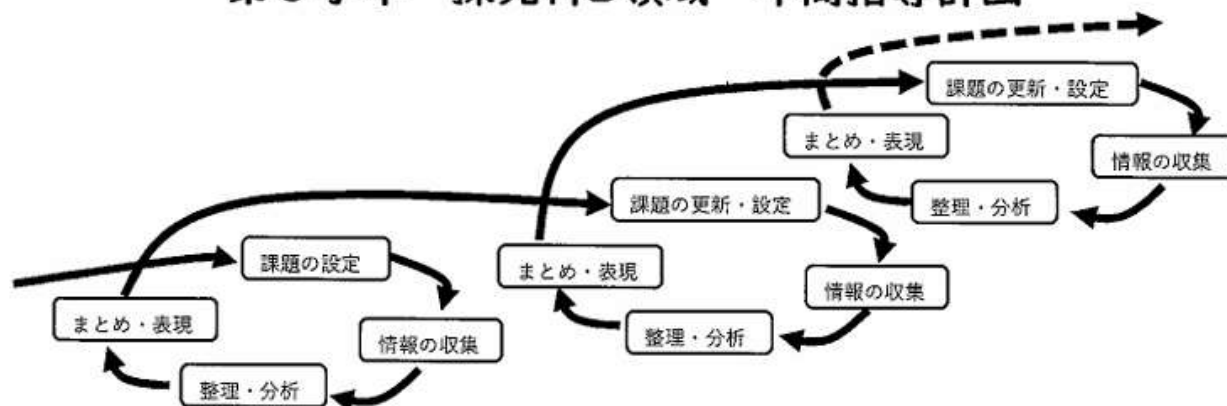
質問じゃんけん じゃんけんをし、勝ったほうが負けたほうに何か質問。1分後交代。

アドジャントーク トークテーマを7つ準備しておく。アドジャンの掛け声で、じゃんけんのグー、もしくは指を1～3本出す。二人の合計の指の本数の番号のトークテーマでお話をする。

わたしのしたいこと 例したいこと5つ ほしいもの5つ おねがいごと3つ をメモし紹介しあう。

<資料 7> 探究科 B 領域 年間指導計画例

第 5 学年 探究科 B 領域 年間指導計画



単元名 見直そう別府の町の防災（全 30 時間）

単元目標 別府市の防災について、修学旅行の見学先である雲仙の被害等を調べることを通して、災害が人々に与える影響について理解し、外国人や観光客が多く存在している別府市の防災や安心して過ごせるための工夫を考え、命を大切に、地域と協力し合おうとする態度を育てる

	小单元 1	小单元 2	小单元 3
小单元名	雲仙普賢岳について調べよう	坊主地獄の安全対策はどうなっているのか調べよう	別府の安全対策をより良いものにするために行動しよう
課題の設定 更新	・修学旅行の見学先にある「がまだすドーム」ってどんなところだろう。 ・よく知られている災害について調べてみよう。	・東京ディズニーリゾートは、なぜ東日本大震災で 7 万人を救ったと言われているのだろう。 ・東京ディズニーリゾートの避難訓練から学べることは何だろう。	・坊主地獄の方に話を聞いてどんなものを作ったらいいか考えよう
情報の収集	・調べる災害を決め、グループ分けしよう。 ・グループごとに災害について調べまとめよう。 ・まとめたこと発表し、共有しよう。	・別府市の防災について調べよう。 ・別府の観光地の防災についての取り組みを聞いてみよう。	・他の観光地ではどんなものがあるのか調べてみよう
整理・分析	・各災害から防災について必要な要素は何か考えよう。 ・緊急時の優先順位を考え、友達と比べてみよう。	・別府の防災の問題点についてまとめよう。 ・市民、障がい者、留学生、観光客の視点で防災を捉え直そう。 ・気づいたことを元に自分たちができることを考えよう	・自分たちが考えたものは坊主地獄にあっていいのか確かめよう
まとめ・表現	・学んだことをまとめてみよう。 ・災害の被害が大きくなるのはどんな時だろう。	・坊主地獄の防災に役立つ物を作ろう	・完成したものを坊主地獄に届けよう ・学習全体を振り返って、学んだことをまとめよう。